

全国自治体病院学会 in 北海道 抄録

川島秀樹・白木秀典

演題名： 公立・公的病院のネットワークと地域民間病院との関わり

【はじめに】本稿では統合再編・ネットワーク化を行った病院について、民間病院にどう影響をもたらすのか、その関わりについて考察する。

【目的】病院ネットワーク化の事例である病院について2012年から2021年までの財務データを考察し、DPC病院機能報告などのデータから地域の民間病院との関わり合いを述べる。事例としては統合再編の兵庫県北播磨総合医療センター、尼崎総合医療センター、ネットワーク化事例の奈良県南和広域医療企業団、三重県の桑名市総合医療センターなどである。病院再編・ネットワーク化によって、民間病院にどう影響しているか。連携しながら機能分担して、どう変化しているのか民間病院を含めて考察する。

【方法】総務省の病院事業決算状況・病院経営分析比較表を時系列に分析し、DPCデータから診療科目ごとの月平均患者数、手術数、地域におけるポジション分析について2015年から2021年まで調査した。各医療圏に関する県の病院局の資料、アンケート調査などについても、それらの結果を勘案して考察する。

【結果】ネットワーク化成功事例の病院は、病床の機能を分化し、患者の状態に応じて必要な医療を受けられる体制と、一つの病院で入院を完結するのではなく、地域全体で患者を支える後方支援の体制をとる必要がある。統合再編した病院では、新規の病院建替えを行うことにより、高度救急医療を行うことができ、患者数を昔の水準まで獲得することができている。しかし、近隣の民間病院は後方支援病院として、軽症急性期や回復期病院としての生き残りを図っていると考えられる。また、ネットワーク化の病院については、3つある病院を1つだけ高度の救急病院にして、残りをその後方支援病院にしている。その場合、診療科のすみ分けが上手く行われており、近隣の民間病院との関係もスムーズであると思われた。

【考察】公立・公的病院は、民間病院との協業を図り、得意分野の診療科に選択と集中とする診療科の整理が行われることが望まれる。「地域で高度な医療を支える柱となる病院」の体制が強化され、病院の病床ごとに機能を分化し役割分担することで、病院の効率性と生産性が高まると考えられる。

【結論】再編の病院は、経営的に安定している。ネットワーク化の病院は、診療科の見直しが図られている。また近隣の民間病院はその動きを見ながら、病棟の再編などで経営戦略の見直しを計っている。